

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 日明 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

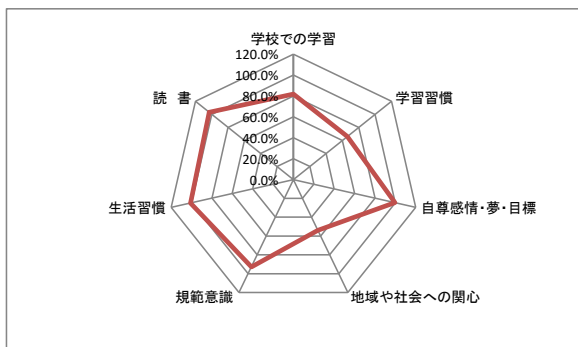
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国と比較すると、平均正答率はほぼ同等である。昨年度の課題であった「知識・理解」に関しては全国の前年を上回っており、学習の成果が見られた。「話すこと・聞くこと」「読むこと」については昨年と同様に平均正答率がやや低く、課題が見られる。また、本年度は「国語への関心・意欲・態度」についての誤答が多く、児童の学習への意欲を高めることが課題として挙げられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題や、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題。学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題。	同程度である
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしまとめて書く問題や、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題。話し手の意図を捉えながら聞き自分の考えをまとめる問題。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国と比較すると、平均正答率が低い。中央値が全国の値に比べ1問分低くなっており、幅広く支援を行う必要がある。特に「数と計算」「数量関係」に関する問題への誤答が多く、課題が見られる。中でも数量や図形に関する技能を評価する問題への正答率がかなり低く、学習した内容を活用し、問題を解く機会を増やし、児童の技能を高めることが課題として挙げられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題。棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題。	下回っている
	努力が必要な問題	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く問題。また、二つの棒グラフから一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだだけを書く問題。減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめることのようになるかを書く問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○成果	読書タイムの取組や朝の読み聞かせ、ブックトークの実施を通し、新しい本との出会いの機会が増えたことにより、本を読むことを楽しんでいる児童を育むことができています。また、帰りの会などでよいところ見付けに取り組んだことで、自尊感情が高まり、将来の夢や目標をもつ児童が増えてきている。さらに、保健だよりで朝食や睡眠の大切さについて触れるなどの取組により、基本的な生活習慣が身に付いてきている。
○課題	家庭での自主学習の習慣がない・家庭学習の時間が少ない・地域への関心が薄い・学校の授業で主体的に学んだり話し合いを通して考えを深めたり広げたりする経験が少ないなどの課題がある。また、学校のきまりを守る意識が低下しつつある。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

学校全体で、朝自習の時間に取り組んでいる「算数チャレンジタイム」の問題を見直し、各学年の課題に応じた内容に取り組むことができるようにする。学級の授業で考える・書く・話し合う活動を確実に仕組むように共通理解し、自分の考えの深まりや広がりを自覚できるような学習の振り返りをするようにする。特に話し合い活動では、全員が自分の考えを相手に伝えることができる話し合いになるよう話し方・聞き方の指導・支援を行うようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりやホームページに本校の課題を記載し、家庭への周知を行う。それと同時に家庭教育チャレンジハンドブックを参考にしながら、自主学習の内容や目安の時間を保護者や児童に紹介することで、家庭と学校が協力して課題を解決できるようにする。地域の行事に関心がもてるよう、お知らせを配布した際はいつどんな行事があるかを口頭でも伝えるようにする。中学校区で取り決めたくらしの約束を教室に掲示したり家庭へ配布したりすることで、家庭と学校が協力してきまりを守って行動する意識を育むことができるようにする。